

2003 . 5

白石区民のページ page

白石区インターネットホームページ
<http://www.city.sapporo.jp/shiroishi/>
白石区民公式サイト「shiroishi.org」
<http://www.shiroishi.org/>

「知らなかった」。白崎さんは一冊の地域情報誌に見入った。そこには、区内の小学生たちが地域の歴史を調べていく様子が書かれていた。それによると、JR白石駅と、白石区に入植した宮城県白石市の白石駅の間にかつて姉妹駅としての交流があったという。やがて小学生たちは姉妹駅の復活を夢見、その方法を模索した結果、「たくさん大人たちがいるんなことをしなくてはいけないので、とても難しいそうです」と締めくくっていた。「何が難しいのか。この夢は地域に対して投げ掛けられたもの。応えなくては」。白崎さんは思った。一昨年のことである。

白石生まれの白石育ち。自らを「白石人」と言ってはばからない。寝具製造販売業を営む傍ら、地域の街づくりに取り組んでいる。他地域や他市町村の商店街の人たちとも交流が深い。昨年誕生した白石鍋や、秋の収穫祭に向けた小学生による農業体験などにも仕掛け人として奔走した。こんなことがあった。JR白石駅と札幌ドームを結ぶシャトルバス運行開始を記念してセレモニーをしようと働きかけた。周囲の反応はいまひとつ。白崎さんは花束贈呈ぐらいなら一人でもできると準備を始めた。その動きに合わせるようにして地域の人たちが集まった。花火も上がった。

子供たちが描いた姉妹駅復活の夢。地域がこれに応えなければと思ったね。

宮城県白石市への団体訪問を企画した

白崎 邦彦さん (五二)

(平和通三丁目南在住)



今月の人

「イベントをしたいというより、何かお祝いをしてあげたいと思ったんですよ」と照れながら笑った。

今年三月に、商店街の仲間とともに宮城県白石市を訪問した。市役所や白石城、片倉家の菩提寺である傑山寺などを回り、打ち合わせをしてきた。地元の温泉宿の手配も済ませた。「子供たちの夢を実現させてあげたかった。そして白石のルーツをたくさんの方に知ってほしい」と力を込める。

当地で開催される姉妹駅調印式と歴史巡りの旅へと、区民百二十人を乗せた寝台列車がホームを離れるのは今年七月四日の夜である。

編集 白石区役所総務企画課広聴係
☎003-8612
札幌市白石区本郷通3丁目北1-1
☎861-2400 内線224
FAX860-5236

「白石市の歴史探訪と地元交流の旅（7月4日～6日）」の問い合わせ先
☎ 861-1554 FAX 866-1323 (JR白石駅)